

去ろう。

エリフは自分が語るまで、他の人の意見に「耳を傾けて」いました。同じ場所で堂々巡りをしているようなとき、新しい視点で可能性を与えるのはこのような人です。

自分の主張でヨブを非難していた友人たちは、「罪を認めさせる」ことはできませんでした。エリフは神の霊に視点を置いているのです。

ローマ書には「11:33 ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょうか。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょうか。11:34 なぜなら、だれが主のみこころを知ったのですか…」とあります。語るならば、友人たちのように自論を押し付けるのではなく、神の御心を求めることを促しましょう。

32:10 だから、私は言う。

「私の言うことを聞いてくれ。

私も、また私の意見を述べよう。」

32:11 今まで私はあなたがたの言うことに期待し、あなたがたの言い分を調べ上げるまで、あなたがたの意見に耳を傾けていた。

32:12 私はあなたがたに注意を払っていたのに、ヨブに罪を認めさせる者はなく、あなたがたのうちで彼のことばに答える者もない。

32:13 だが、おそらくあなたがたは言おう。

「私たちは知恵を見いだした。

人ではなく、神が彼を吹き払った。」と。

32:14 彼はまだ私に向かってことばを並べたててはいない。私はあなたがたのような言い方では彼に答えまい。

32:15 彼らはあきれて、もう答えない。彼らの言うことばもなくなった。

32:16 彼らが語らず、そのままじっと答えないからといって、私は待っていなければならないだろうか。

32:17 私は私で自分の言い分を言い返し、私の意見を述べてみよう。

32:18 私にはことばがあふれており、一つの霊が私を圧迫している。私の腹を。

32:19 今、私の腹は抜け口の無いぶどう酒のようだ。新しいぶどう酒の皮袋のように、今にも張り裂けようとしている。

32:20 私は語って、気分を晴らしたい。くちびるを開いて答えたい。

32:21 私はだれをもひいきしない。どんな人にもへつらわない。

32:22 へつらうことを知らないから。そうでなければ、私を造った方は今すぐ、私を奪い

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

